

デジタル・ライブラリアン講習会 ＜大学図書館コース＞のお知らせ

平成19年9月

主催：デジタル・ライブラリアン研究会

協力：(株)紀伊國屋書店、(財)高度映像情報センター<AVCC>

第7期デジタル・ライブラリアン講習会大学図書館コース開催のお知らせ

図書館をとりまく状況は前世紀末以来急速に変容しつつあり、館種を問わず、IT革命、国際化、アウトソーシングなどへの対応を迫られております。しかしながら、図書館界が新たな世紀にふさわしい図書館経営のあり方を模索しているうちにも、指定管理者制度やPFI、さらにはNPOによる図書館の設置・運営など、労働市場の変化や民間活力の導入といった社会の動きはより速いスピードで進んでおります。

こうした現状に対し、私たちは、図書館を職場として働いている館長を含む現職図書館員（必ずしも司書有資格者に限らない）あるいは近い将来電子化が進んだ図書館で働こうという意欲ある方々を対象に、従来の職員研修よりも実践的でレベルの高い再教育（リカレント教育）の場が必要だと考えました。特に、これからの図書館職員に求められるのは、最新の情報技術（IT）を使いこなすスキルと経済の低成長時代に見合った経営センスであります。それらの能力と実務の経験に裏打ちされた新たな司書の育成が何より急がれます。

そこでわが国の司書養成・研修の現状に飽き足りない図書館関係者を中心に、平成13年秋、(株)紀伊國屋書店と(財)AVCCの協力を得て、これからの図書館を支える人材の育成と確保に向けたデジタル・ライブラリアン講習会（略称：DL講習会）を開催いたしました。おかげさまでたいへん好評を博し、以後、第2期～第6期と毎年開催し、参加していただいた大学図書館の方々には、仕事を遂行する上で、今すぐ必要な「スキル」、そして専門職として図書館員が持っていなければならない「センス」を身に付けていただくことができました。（講習会を修了した方の「受講者の声」をこの案内書に一部紹介させていただいております。）

今年度はこれらの成果をもとに、「リサーチ・ライブラリー機能を持った大学図書館の再構築」を目標に、実務に役立つことを念頭においた、別掲のような研修プログラムを用意いたしました。

具体的に、デジタル・ライブラリアン講習会の特色は、次のような点にあります。

- 1) 定員20名という少人数で講師と受講者相互の密度の濃いコミュニケーションを実現
- 2) 講義と演習とディスカッションによるバランスのとれた実践的な研修プログラム
- 3) 研究支援に対応できる専門職をめざし、e-レファレンスやコンソーシアム等、最新のトピックを網羅
- 4) 図書館の実務と理論、政策に精通した各領域の第一人者から成る講師陣
- 5) 座学だけではない、1人1台ずつのPCとインターネット環境
- 6) 土曜日を中心に隔週7回で適度な期間の反復と継続性。受講期間内は、講師と受講者相互のメーリングリストを併用
- 7) 修了レポートの厳正な審査にもとづく修了証の交付

ぜひこの講習会の趣旨を御理解いただき、ご参加くださいますよう御案内申し上げます。

デジタル・ライブラリアン研究会

代表者：糸賀 雅児（慶應義塾大学 文学部教授）

副代表：小林 是綱（NPO 法人地域資料デジタル化研究会理事長）

副代表：加藤 好郎（慶應義塾大学 国際センター 事務長）

デジタル・ライブラリアン研究会事務局（株式会社紀伊國屋書店/ライブラリーサービス部内/担当：中馬・奥山）

〒150-8513 東京都渋谷区東3丁目13番11号

TEL: 03-5469-5924 FAX: 03-5469-5964 e-mail: DL00@kinokuniya.co.jp URL: <http://www.dla.jp/>

お問い合わせは、事務局までお願いいたします。

☆デジタル・ライブラリアン研究会[略称：DL研究会]発起人☆

逸村 裕	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 教授
大串 夏身	昭和女子大学人間社会学部 教授
齋藤 誠一	千葉経済大学短期大学部 准教授
高井 昌史	(株)紀伊國屋書店 取締役副社長 営業総本部長
竹内 比呂也	千葉大学文学部 准教授
常世田 良	社団法人日本図書館協会 常務理事
永田 治樹	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科 教授
西河内 靖泰	荒川区役所 福祉部
二村 健	明星大学人文学部 教授
野末 俊比古	青山学院大学文学部 准教授
長谷川 豊祐	鶴見大学図書館
原田 隆史	慶應義塾大学文学部 准教授
細野 公男	慶應義塾大学 名誉教授
丸山 修	(財)高度映像情報センター<AVCC> 普及啓発部長
山崎 博樹	秋田県立図書館

【50音順】

このDL講習会は、次のようなことを考えていらっしゃる図書館現職者の方々のためのものです。

- ・ IT改革が進んでも、司書として働きたい。
- ・ 本格的なIT講習を図書館で実施することを考えている。
- ・ 財政担当者との予算折衝をもっと有利にもっていきたい。
- ・ 図書館のデジタル化、ネットワーク化の仕組みを学びたい。
- ・ インターネットを活用した新しい図書館サービスを検討している。
- ・ 司書の資格だけでなく、もっと別の資格や学位の取得をめざしたい。
- ・ 図書館でホームページを作ることになり、その担当者になってしまった。
- ・ 図書館独自の貴重書や地域資料のデジタル化・アーカイブ化を考えている。
- ・ 21世紀にふさわしい図書館のあり方を考え、他の図書館と意見交換したい。

デジタル・ライブラリアン講習会大学図書館コース 受講者の声

- ・ 図書館経営を考える上でのポリシーや、一方具体的なノウハウがバランス良く、とても良かったです。
- ・ ケースメソッドについて、これまで具体的に考えたことがなかったので、良い経験となった。
- ・ 全体を通して、今後取り組んでいくべき課題を、大局的な観点から実務のレベルでの観点まで幅広く提供していただける機会でした。ありがとうございました。

1. 講習会プログラム日程表

月日	週	テ ー マ	講 師
H19. 10/27 (土)	第 1 週	大学における研究・教育の変容と大学図書館 (1) 大学図書館政策 (2) アウトソーシング時代における大学図書館経営戦略	竹内 比呂也(千葉大学) 加藤 好郎(慶應義塾大学)
11/17 (土)	第 2 週	デジタル時代におけるレファレンスサービス (3) レファレンスサービスの新たなモデル (4) デジタル化によるレファレンス業務の変化	田村 俊作(慶應義塾大学) 梁瀬 三千代(慶應義塾大学)
11/24 (土)	第 3 週	ネットワーク環境における大学図書館 (5) 大学図書館におけるインターネットの活用事例 (6) ポータル機能を活用した情報サービス	長谷川 豊祐(鶴見大学図書館) 林 賢紀(農林水産研究情報センター)
12/15 (土)	第 4 週	ネットワークを介した学術情報の流通 (7) 学術情報流通とオープンアクセス (8) 学術情報流通の動向と機関リポジトリ	倉田 敬子(慶應義塾大学) 尾城 孝一(国立情報学研究所)
12/22 (土)	第 5 週	デジタルデータの作成、蓄積と活用 (9) デジタルデータの作成、蓄積と活用 (10) Web ページを用いた情報提供とXML	原田 隆史(慶應義塾大学)
H20. 1/19 (土)	第 6 週	デジタル・ライブラリーと図書館コンソーシアム (11) 大学におけるデジタル・ライブラリーの構成 (要件機能とガバナンス) (12) 図書館の協力、図書館コンソーシアム	永田 治樹(筑波大学)
1/26 (土)	第 7 週	これからの大学図書館における情報サービス (13) 10年先を見据えた大学図書館の運営：ケースメソッド (14) 大学図書館における学術情報基盤の構築・整備と 学術情報の発信	加藤 好郎(慶應義塾大学) 逸村 裕(筑波大学)
2/29 (金)	修了レポート提出 修了レポート提出期限は2月29日(金)です。 修了レポートの提出手順については、10月27日(土)(第1週)の講習の最後に説明します。 なお、修了レポートの テーマの提出期限は1月25日(金) です。 (この講習会の内容に関わるものであれば、原則としてテーマ設定は自由)		

※ テーマ・講師に関しましては、多少の変更があるかもしれませんので、ご了承願います。

《会 場》 紀伊國屋書店 本社(東京・恵比寿)7F セミナールーム〔全日程共通〕

地図はこちら http://www.kinokuniya.co.jp/06f/d04/6_map.htm をご参照ください。

《時間構成》 前半の講義：午後1時30分～2時45分 休憩：15分

後半の講義：午後3時00分～4時15分 休憩：5分

フリーディスカッション：午後4時20分～5時20分〔全日程共通〕

《補 講》 希望者が多い場合には、以下の補講(2種類 計4時間)を開催予定です。(費用は無料です)

1. 原田先生による「HTMLの書き方」「CSSの利用」の補講 第2,3,5週本講義前(各約1時間)

2. 紀伊國屋書店による「NetLibrary」の補講 第4週本講義前(約1時間)

2. 講習会概要

- ① 受講料：45,000円

※各コースのコマごと（1日2コマ×7日＝14コマ）の受講は受けません。

計14コマ通じての受講の受けとなります。

支払い期日：私費の場合・・・10月27日<現金または振込>、公費の場合・・・請求書を講習会初日にお渡ししますので、後日指定口座（三菱東京UFJ銀行）への振込をお願いします。

振込先：三菱東京UFJ銀行 恵比寿支店 普通 No.1412761

口座名義 デジタル・ライブラリアン研究会

- ② 定員：20名

- ③ 受講対象者：司書資格を持っているか、または平成19年3月末時点で大学図書館の実務経験（正規職員、非常勤、嘱託、臨時、など）が2年以上ある方。年齢は問いませんが、大学図書館の現職者を優先します。

- ④ 受講要件：1) 電子図書館の実現に関心をもっていること。
2) メールアドレスをDL講習会の開講日までに所有し（メールアドレスは、自宅もしくは勤務先どちらでも結構ですが、**個人管理で運用**しているものに限らせていただきます）、電子メールの送受信ができること。
3) 次の日本語文章を6分以内でワープロ文書に入力変換できる程度のキーボード操作スキルをもっていること。

「リクエストされた資料が雑誌論文のコピーであった場合には、物理的な配送だけではなくインターネット経由で送信を行う場合がある。たとえばCICの参加館間ではArielを用いた資料の電送が行われている。ArielとはThe Research Libraries Group Inc. (RLG)が開発したネットワーク経由で電子的に送受信するためのソフトウェアである。」

- ⑤ 受講参加を申し込むにあたって、このDL講習会もしくはDL研究会に対してのご意見・ご感想をご記入願います。

3. 個人情報の取扱いについて

お申込み書から取得させていただいた個人情報は、ご了解いただいた目的の範囲内で利用致します。あらかじめご本人のご了解をいただく場合を除き、個人情報を第三者に提供または開示致しません。また、不正アクセス、紛失、改ざん及び漏洩等の事故を防止するため、適切なセキュリティ対策を講じ、データを管理しているデジタル・ライブラリアン研究会事務局が置かれている、株式会社紀伊國屋書店の「プライバシー・ポリシー」の主旨にそった正しい処理に準拠します。

4. 講習会申込みについて

下記の申込書に必要事項を記入の上、EメールもしくはFAXでお申込み下さい。
なお、この案内書はDL研究会のホームページ (<http://www.dla.jp/dla01.html>)
に掲載されています。

デジタル・ライブラリアン研究会事務局 行

Fax : 03-5469-5964

E-mail : DL00@kinokuniya.co.jp

Tel : 03-5469-5924

※その他、このDL講習会に関するお問い合わせ
も左記までお願いします。

※全項目について、もれなくご記入ください。

申込み日： 月 日

(ふりがな) お名前	()	男・女	図書館勤務通算年数： 年
所属			
住所	〒 (自宅 ・ 職場)		
TEL		FAX	
メールアドレス			
補講の受講	1. 「HTMLの書き方」「CSSの利用」	希望する ・ 希望しない	
	2. 「NetLibrary」	希望する ・ 希望しない	
〈ご意見・ご感想〉			

※ 申込締切：10月20日(土)

※ 申込みが定員の20名を超過した場合は、申込書の記入内容をもとに、同一館に偏らないようにするなどの配慮をしたうえで、事務局で受講者を決めさせていただくことになります。申込先着順ではありませんので、予めご了承ください。

※ 受講の可否につきましては、10月23日(火)以降にメールでご連絡致します。